

Civil Opinions Blog

7月29日 森ゆうこ前議員までもが「小沢検審議決は検察捏造報告書の誘導」と、架空議決を否定！

# 一市民が斬る!!

一市民が斬る!! [Civil Opinions Blog] ブログを購読

## 7月29日 森ゆうこ前議員までもが「小沢検審議決は検察捏造報告書の誘導」と、架空議決を否定！

### <森ゆうこ前議員に期待した市民達>

一市民Tも他の市民も、森氏に検察審査会の真相究明を期待した。それだからこそ、石川克子氏と一市民Tは、情報開示請求で入手した文書などの資料、その他関連情報を、森氏に多数届けた。

### <小沢判決直前に、森氏は追及を「最高裁」から「検察」に変えた>

昨年4月26日、小沢無罪判決が出た。その直前から森氏の様子がおかしくなった。肝腎の最高裁への追及がなくなったのだ。そして、「起訴議決は検察の捏造報告書による誘導による」と驚くべきことを言い出した。見え見えの架空議決で審査員がいないのだから、誘導はありえないのだが。判決直前、森氏が中心になって衆参法務委員会秘密会の開催要請をした。だが、無罪判決以後、具体的な開催要請は一切なかった。その後、何者かによってロシアサーバーを通じ捏造報告書が八木啓代氏に届けられた。すぐ、森氏と八木啓代氏は「市民と議員の会」を結成し、検察追及を始めた。その頃から森氏は一市民Tと石川克子氏を遠ざけるようになった。その年の5月、森氏は「検察の罟」という本を上梓。本の冒頭で『.....この議決は検察当局の捜査報告書の「捏造」という犯罪によって誘導されたものである』と書いた。『.....最高裁スタッフは真面目で優秀であるが、.....私は決して悪い人間ではないと思っている』と書いた。見えない何かによって、「最高裁」から「検察」に舵が切られたかのように見えた。

### <「起訴議決は検察捏造報告書による誘導」説と「起訴議決は最高裁による架空議決」説はかくも違う>

森氏は

1. 審査員は存在する。
2. 審査会議はきちっと開かれた。
3. 起訴議決は検察の捏造報告書による審査員誘導による。

一市民Tらは

1. 公正なくじで選ばれた審査員は存在しない。
2. 審査会議は開かれなかった。
3. 起訴議決は架空議決だった。議決書が創作された。

「審査員が存在する根拠は？」と森氏に尋ねたが、全く理解できない回答だった。「審査員がいたとすると、数々の疑惑はどう説明するのか」と質問したが、一切答えてもらえなかった。

Twitter

### New Title

- 8月1日 最高裁は、小沢氏を確実に起訴するためには、生半可な「審査員誘導」という手は取らない！
- 7月29日 森ゆうこ前議員までもが「小沢検審議決は検察捏造報告書の誘導」と、架空議決を否定！
- 7月27日 「検審架空議決」は世界に類を見ない最高裁判所犯罪！これが民主党革命政権を潰した！
- 7月25日 大新聞が絶対に書けない"小沢抹殺"驚愕の真実！
- 7月24日 司法崩壊を食い止めるため最高裁と闘う仲間達
- 7月23日 司法の正義などない日本！最高裁による小沢抹殺の汚い手口！
- 7月21日 「架空議決」するために、最高裁は「審査員のいない検察審査会」を4か所も新設した！
- 7月19日 最高裁・検察は、如何にして鳩山元首相に「小沢幹事長にも職を辞して頂きたい」と言わせたか！
- 7月18日 最高裁の「架空起訴議決」（一回目審査）が小沢総理誕生を消した！
- 7月17日 最高裁が「9月に入り平日頻りに集まった」と大嘘リークできたのは「審査員がいないから」！

### Archive

- 2013年8月 (1)
- 2013年7月 (17)
- 2013年6月 (12)
- 2013年5月 (11)



## <週刊実話『国家最高機密も握る"謎のフィクサー"』を読むと謎が解ける?>

小沢判決直後に、週刊実話に面白い記事が掲載された。

[週刊実話記事.pdf](#)

週刊実話『国家最高機密も握る"謎のフィクサー"』

謎のフィクサーX氏、森ゆうこ議員、平野貞夫氏が、最高裁に不当な圧力をかけ、小沢無罪を勝ち取ったというストーリーだ。

一市民TはX氏のことをよく知っている。

X氏は昨年初め一市民Tに近づいてきた。

彼は最高裁作成の「イカサマ審査員くじ引きソフト」の情報、「議決後の9月28日に斉藤検察官が検審に説明に行った」という話など、検察審査会の疑惑情報を沢山くれた。

彼はこれらの情報を拙ブログなどで広めてほしいと頼んできた。

彼の言う通りに、もらった情報を使って最高裁を攻めた。

週刊実話の筋は、3人が最高裁に不当な圧力をかけたとしたストーリーにしているため、表現を変えているところもあるが（架空議決をトンデモ推理という）、一市民がX氏から聞いた話とかけ離れていない。

森氏らは、「架空議決」を武器にして、裏で最高裁を攻めていたと推測される。

一市民Tも最高裁追及に一役買ったということだろう。

一市民Tは、週刊実話ストーリーのように最高裁が森氏に屈したのではなく、森氏の方が最高裁に屈したのではないか。

森氏にしてみれば、最高裁追及を止めて、議決は検察の捏造報告書の誘導のせいにしてでも、早く小沢氏の無罪判決がほしかったのではないか。

これはうがった見方なのだろうか。

森氏は疑惑だらけの検審に蓋をただけでなく、起訴議決を検察のせいにして幕を引いてしまった。

森氏には、司法の崩壊を止めるため最高裁と闘ってほしかった。

2013年7月29日



« [次の記事](#) | [ブログトップ](#) | [前の記事](#) »

- 2013年4月 (12)
- 2013年3月 (11)
- 2013年2月 (10)
- 2013年1月 (7)
- 2012年12月 (10)
- 2012年11月 (11)
- 2012年10月 (14)
- 2012年9月 (8)
- 2012年8月 (9)
- 2012年7月 (10)
- 2012年6月 (11)
- 2012年5月 (14)
- 2012年4月 (16)
- 2012年3月 (11)
- 2012年2月 (13)
- 2012年1月 (11)
- 2011年12月 (11)
- 2011年11月 (9)
- 2011年10月 (7)
- 2011年9月 (5)
- 2011年8月 (9)
- 2011年7月 (8)
- 2011年6月 (6)
- 2011年5月 (7)
- 2011年4月 (9)
- 2011年3月 (8)
- 2011年2月 (7)
- 2011年1月 (7)
- 2010年12月 (10)
- 2010年11月 (7)
- 2010年10月 (6)
- 2010年9月 (5)
- 2010年8月 (7)
- 2010年7月 (6)
- 2010年6月 (6)
- 2010年5月 (5)

## Category

2013年4月 (12)

ページトップへ

Copyright © 2010 Civil Opinions Blog. All Right Reserved.



Civil Opinions Blog

8月11日 X氏（森前議員協力のフィクサー）が一市民Tに語った！「検察捏造報告書をロシアサーバーを通し八木氏に流したのは私です」 | 一市民が斬る!! [Civil Opinions Blog]

# 一市民が斬る!!

ブログを購読

## 8月11日 X氏（森前議員協力のフィクサー）が一市民Tに語った！「検察捏造報告書をロシアサーバーを通し八木氏に流したのは私です」

森前議員、平野貞夫氏、X氏は、判決前までは、裏で最高裁を攻めていた。一市民Tも加勢していた。だが、判決直前に、彼らは追及先を最高裁から検察に変えてしまった。

[http://civilopinions.main.jp/2013/08/89\\_1.html](http://civilopinions.main.jp/2013/08/89_1.html)

[http://civilopinions.main.jp/2013/08/810\\_1.html](http://civilopinions.main.jp/2013/08/810_1.html)

驚くべきことに、捏造報告書をネットに流出させたのは森前議員側だった。それも、市民に気づかれないような手を使った。この流出を利用し、最高裁検審疑惑をそのままにして、追及先を最高裁から検察に上手に変えたのだ。

### <X氏「ロシアのサーバーには私が流した」>

流出事件から1年近くたった今年3月、久々にX氏から電話があった。

そのX氏から驚愕の情報もらった。

「志岐さんの最近のブログには一つだけ間違いがある。志岐さんは捏造報告書を流出させたのは最高裁だと言っているが、それは違う。私がロシアのサーバーを通し八木氏に流した。どこから誰が流したか完全わからないようにして出した」

流出が伝えられた直後のX氏も参加したある会で、某ブロガーがX氏に「X氏なら出来るよね。貴方がやったんじゃないの」と言ったが、その時はにやにやしているだけだったことを思い出した。

### <X氏が流したということは森前議員側が流したということだ>

X氏は、森前議員、平野貞夫氏を信頼しており、いつも両氏の指示を仰いで行動していた。両氏のためなら何でもやるという感じの男だ。

両氏もX氏を頼りにしているようだった。

X氏は、週刊実話でフィクサーと書かれるだけあって、多くの情報を持って裏で動ける人だ。「斉藤検察官の議決後の検審説明」「二階議員特許庁汚職」など凄い情報を両氏に提供していた。記者との付き合いも多く、週刊朝日に二階汚職のネタを持ち込み掲載させるなどしている。コンピューター専門家でもあり審査員ソフトの解析でも活躍した。彼にとっては出処を隠してインターネットに流出させることなど朝飯前なのだろう。

しかし、X氏が検察と大きなコネクションがあるといっても、個人で捏造報告書を入手することはできない。入手に当たっては、小沢氏から事件の外部折衝をまかされていた森前議員が関与していたとみた方が自然だ。

また独断でX氏が八木氏に捏造報告書を届けることもしないはずだ。

これも森前議員側の指示によるものと思われる。

森前議員と八木氏は流出後すぐに、「司法改革を実現する国民会議」を結成し検察追及を始めたことも、森前議員側の流出関与をうかがわせるものだ。

Twitter

### New Title

- 8月12日 X氏提供の重大情報「検察官の議決前検審説明なし」は、「架空議決」でしか起こりえない!
- 8月11日 X氏（森前議員協力のフィクサー）が一市民Tに語った！「検察捏造報告書をロシアサーバーを通し八木氏に流したのは私です」
- 8月10日 検察捏造報告書流出の意図！「架空議決説」を否定する動きか？
- 8月9日 「斉藤検察官が議決後検審に説明に行った」の証人X氏は、森ゆうこ前議員の協力者！
- 8月7日 誰が読んでも分かる「驚愕検審架空議決」の決定的証拠！
- 8月6日 「検察官の説明なしでの検審起訴議決」も審査会議が開かれなかった決定的証拠！
- 8月4日 架空議決の決定的証拠！『9月8日「これから審査が本格化」と一斉報道しながら、その後審査会議開かず9月14日議決』
- 8月2日 八木啓代氏「志岐の架空議決説は妄想」と、とんでもない中傷！
- 8月1日 最高裁は、小沢氏を確実に起訴するためには、生半可な「審査員誘導」という手は取らない！
- 7月29日 森ゆうこ前議員までもが「小沢検審議決は検察捏造報告書の誘導」と、架空議決を否定！

### Archive

- 2013年8月 (9)
- 2013年7月 (17)
- 2013年6月 (12)



## <森前議員は2つの流出事件について自分には関係ないととぼけている>

『判決がよいよ2日後に迫った4月24日、ついに切り札は現れた。「週刊朝日」が、東京地検特捜部の謀略をスクープしたのだ』（「検察の罟」P182、183）

捏造報告書が出されたことは小沢公判で明らかにされていた。大したスクープでない。森前議員は大仰に書いて捏造報告書の存在をことさら大きくしたかったのだろう。

一市民Tは週刊朝日に捏造報告書を持っていったのもX氏ではないかと思っている。

『...捏造報告書は、それからしばらくして誰でも読めるようになった。田代検事の作成した捜査報告書が5月2日にネット上に流出したのだ』（「検察の罟」P217）

森前議員はX氏が流出させたことを知っているはずだ。張本人が他人事のように書いている。

## <裏で捏造報告書をこっそり八木氏に届け、表で八木氏と繋がり「捏造報告書による誘導」と騒ぐ>

なかなか手が込んでいるのである。

森前議員らは、捏造報告書をこっそりと流出させて、八木氏に騒がせる。

騒ぎはじめた八木氏とさらに2人で騒ぐ。

こうして、捏造報告書の存在を多くの人知ることになった。

捏造報告書の存在を知った人は、審査員が存在し、報告書で誘導されたと思い込んでしまう。

さらに、森前議員は「議決は検察の捏造報告書による誘導だ」という発言を集会や著作などで繰り返した。

かくして、検察捏造報告書誘導説が世に受け入れられた。

今もって審査員がいるという確たる証拠はない。

審査員が存在したら、起こりえない状況が沢山ある。

これらの疑惑は今もって解明されていないのに、捏造報告書の存在だけで、審査員がいたと決めつけている。

**森前議員は捏造報告書を流出させ、最高裁の犯罪に蓋をした。**

**今すぐやらなければならないのは、検審疑惑の解明である。**

2013年8月11日

 ツイート 69
  いいね! 14
  +1 0

« [次の記事](#) | [ブログトップ](#) | [前の記事](#) »

- ❖ 2013年5月 (11)
- ❖ 2013年4月 (12)
- ❖ 2013年3月 (11)
- ❖ 2013年2月 (10)
- ❖ 2013年1月 (7)
- ❖ 2012年12月 (10)
- ❖ 2012年11月 (11)
- ❖ 2012年10月 (14)
- ❖ 2012年9月 (8)
- ❖ 2012年8月 (9)
- ❖ 2012年7月 (10)
- ❖ 2012年6月 (11)
- ❖ 2012年5月 (14)
- ❖ 2012年4月 (16)
- ❖ 2012年3月 (11)
- ❖ 2012年2月 (13)
- ❖ 2012年1月 (11)
- ❖ 2011年12月 (11)
- ❖ 2011年11月 (9)
- ❖ 2011年10月 (7)
- ❖ 2011年9月 (5)
- ❖ 2011年8月 (9)
- ❖ 2011年7月 (8)
- ❖ 2011年6月 (6)
- ❖ 2011年5月 (7)
- ❖ 2011年4月 (9)
- ❖ 2011年3月 (8)
- ❖ 2011年2月 (7)
- ❖ 2011年1月 (7)
- ❖ 2010年12月 (10)
- ❖ 2010年11月 (7)
- ❖ 2010年10月 (6)
- ❖ 2010年9月 (5)
- ❖ 2010年8月 (7)
- ❖ 2010年7月 (6)
- ❖ 2010年6月 (6)
- ❖ 2010年5月 (5)

Category

❖ BLOG (13)

❖ [ページトップへ](#)

Copyright © 2010 Civil Opinions Blog. All Right Reserved.



Civil Opinions Blog

8月17日 検審疑惑報道は「小学館」だけ！「記者クラブメディアは検察審における司法暴走に

負担」(SAPIO8月号)

一市民が斬る!! [Civil Opinions Blog]

ブログを購読

# 一市民が斬る!!

## 8月17日 検審疑惑報道は「小学館」だけ！「記者クラブメディアは検察審における司法暴走に負担」(SAPIO8月号)

日本の記者クラブメディアは死んでいる。

日本の政治を無茶苦茶にした「イカサマ検審議決」のことを報道しない。

報道しないどころか、検察審における最高裁暴走に負担しているのである。

なぜそうなるのか。「イカサマ検審議決」の主犯が最高裁で、その最高裁に睨まれると怖  
いからだ。

### <その中で、唯一の例外は小学館>

小沢検審議決から2年半も経った今年3月、週刊ポスト(小学館週刊誌)が『小沢一郎を「刑事被告人」にした「検察審査会」新たな重大疑惑』(志岐武彦『最高裁の罠』著者署名記事)を掲載した。

[週刊ポスト4月5日号.pdf](#)

続いて、7月には月刊誌SAPIO(小学館)が以下の記事を掲載した

『小沢一郎を強制起訴し、証拠捏造検事を無罪放免にした検察審査会の疑惑は闇に葬られた』(ジャーナリスト武富薫)

記事掲載から1か月以上経っているので、ここに全文転載する。

[SAPIO 8月号.pdf](#)

### <記事のリード>

『小沢一郎・民主党元代表(現・生活の党代表)の政治資金をめぐる陸山会事件で注目された「検察審査会」。「市民目線」の判断を司法に導入するという名分で始まったこの制度は、現実には逆に司法の暴走を「市民の判断だ」と偽装させる隠れ蓑になっている。ではそれをメディアはどう報じたか』

検察審査会制度そのものが、司法(=最高裁)の暴走を「市民の判断だ」と偽装させる隠れ蓑になっていると、ズバッと指摘している。

### <記者クラブメディアは関係者からリークされた真偽不明の情報をそのまま垂れ流している>

記事の中では、小沢検審の議決時新聞報道を例に、記者クラブメディアが関係者からリークされた真偽不明の情報をそのまま流していると批判している。

引用した新聞記事は以下の通りだ。一市民Tが何度も掲載した記事だ。

[朝日新聞10月5日朝刊.pdf](#)

[朝日新聞10月5日夕刊.pdf](#)

[読売10月6日朝刊.pdf](#)

### <一市民Tのコメントを載せてくれた>

### New Title

- 8月18日 森ゆうごさんにお尋ねします！東京第五検審の審査員に足はありましたか？
- 8月17日 検審疑惑報道は「小学館」だけ！「記者クラブメディアは検察審における司法暴走に負担」(SAPIO8月号)
- 8月16日 小沢さん、何とかして下さい！一市民がこんな目に遇ってます。
- 8月15日 私も書きたくないことだが、「最高裁の罠」出版の経緯を明らかにする！
- 8月14日 拝啓 森ゆうご殿 一市民Tの周りで起こった事実をお知らせします！
- 8月12日 X氏提供の重大情報「検察官の議決前検審説明なし」は、「架空議決」でしか起こりえない！
- 8月11日 X氏(森前議員協力のフィクサー)が一市民Tに語った！「検察捏造報告書をロシアサーバー越し八木氏に流したのは私です」
- 8月10日 検察捏造報告書流出の意図！「架空議決説」を否定する動きか？
- 8月9日 「斉藤検察官が議決後検審に説明に行った」の証人X氏は、森ゆうご前議員の協力者！
- 8月7日 誰が読んでも分かる「驚愕検審架空議決」の決定的証拠！

### Archive

- 2013年8月(14)
- 2013年7月(17)
- 2013年6月(12)
- 2013年5月(11)
- 2013年4月(12)



一市民Tは、SAPIO記者に取材を受けた。

一市民Tが記者に重点的に伝えた点は

『「9月に入ってから平日頻繁に集まり審査を行った」という読売・朝日の記事はおかしい。私達が情報公開で得た「審査員日当旅費請求書」では議決前の9月前半の審査日は9月6日だけ』

『斉藤検察官は議決後の9月28日に検審に不起訴理由を説明に行っているが、報道では「東京地検特捜部の斉藤隆博・副部長の意見聴取が9月上旬に行なわれた」とある。私達が情報公開で入手した出張管理簿には9月上旬行ったという記録がない。』

検察審査会の間を描いた『最高裁の罨』(K&Kプレス刊)の著者で情報公開請求を行った志岐武彦氏が語ると前書きして、一市民Tが話した内容を載せてくれた。

### <最高裁を追及する政治家は全滅した>

さて、最高裁と闘う政治家は森ゆうこ前参議院議員だけだった。

小沢判決前までは、森ゆうこ前議員、そしてそのブレンX氏と最高裁追及をし続けた。森前議員には ずいぶん資料を提供した。森前議員から激励や感謝のメールなど頂いた。これらのメールはありがたく保存している。

ところが、小沢判決直前から森氏は変わった。

著作「検察の罨」で『この議決は検察当局の捜査報告書の「捏造」という犯罪によって誘導されたものである』と書かれたのを見て確信した。

捏造報告書があるだけで審査員誘導と決めつけている。このことは、「審査員がいるか、いないか」問題に決着をつけたということだ。森氏は最高裁の限りない疑惑をそのままにして「審査員はいる」と言っただけだ。

今年の3月森前議員のブレンX氏は、「自分が捏造報告書をロシアのサーバーを通し八木啓代氏に流した」と一市民Tに告げた。

このように検察の捏造報告書誘導説を広めて、最高裁の犯罪を消そうとしているように見えた。

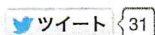
これで最高裁を本気で追及する政治家は全滅したと悟った。

### <最高裁を追及するジャーナリストも全滅に近い>

今「司法の暴走」「検察審査会の疑惑」を記事にしているのは、週刊ポストとSAPIOだけだ。小学館だけということになる。

小学館には頑張ってもらいたいと願うだけだ。

2013年8月17日



« [次の記事](#) | [ブログトップ](#) | [前の記事](#) »

Category

✦ BLOG (13)

✦ ページトップへ

Copyright © 2010 Civil Opinions Blog. All Right Reserved.